

**千葉大学医学部附属病院で  
腹腔内腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法を受けられた  
患者の皆様、ご家族の皆様へ**

2024年3月11日

消化器内科

消化器内科では、腹腔内腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法の診断能を検討に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に診療情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

**本文書の対象となる方**

2012年1月1日～2024年2月29日の間に千葉大学医学部附属病院で  
腹腔内腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法を受けられた方

**1. 研究課題名**

「腹腔内腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法の診断能を検討する後方視的研究」

**2. 研究期間**

2024年承認日～2029年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

**3. 研究の目的・方法**

超音波内視鏡下穿刺吸引法 (endoscopic ultrasound guided fine needle aspiration: EUS-FNA) は 1991 年に千葉大学の神津照雄先生らが世界初の動物実験成功を報告しました。以降、腹腔内腫瘍に対して世界中で広く行われており、本邦でも、2012 年に保険収載されています。採取組織量の増加のための穿刺針は新しいものが続々と開発され、組織採取率向上のためのテクニックも続々出現しています。EUS-FNA は確立された検査手技ではあるものの、使用する穿刺針や、吸引をかける方法、ストロークの回数などは確立したものがありません。穿刺針の種類や、吸引をかける方法、ストロークの回数などについて、穿刺対象の腫瘍の種類による違いも含めて、実際に外科手術で摘出された検体との照らし合わせにより、正診率を算出し、正診に寄与する

因子を同定し、最適な検査方法の確立と、検査の限界を明らかにすることを目的としています。常にデバイスが進化し、新しいテクニックも報告されていく中で、当院のデータから、使用する穿刺針や、吸引をかける方法、ストロークの回数などについての最適な検査方法を検討することは意義のあるものと考えています。

#### 4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、性別、日常生活自立度、生活歴（飲酒・喫煙など）、職業歴、既往歴、併用薬、家族歴、血液学的検査等の臨床検査結果、内視鏡検査時の情報、採取された検体の病理報告書の情報、内視鏡検査後の経過、外科手術検体の病理報告書の情報など。

#### 5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：腫瘍内科 助教 高橋 幸治

#### 6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院消化器内科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

#### 7. 研究についての相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください

い。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院

腫瘍内科 助教 高橋 幸治

043(222)7171 内線6672